

Artist Project#2.06 SEN TAKAHASHI

アーティスト・プロジェクト#2.06 高橋銑
いき、またいきるまで



Cast and Rot No.1 2019
Photo by KEIZO KIOKU

現在活躍中のアーティストを紹介する「アーティスト・プロジェクト#2.0」。2022年度は、新進気鋭のアーティスト・高橋銑を迎えます。高橋は東京藝術大学で彫刻を専攻し、現代美術の分野で活躍するかたわら、彫刻作品の保存修復にも携わってきました。近年では、保存修復の仕事のなかで培われた美術作品への洞察を起点に、作品の永続性や、作品の保存に関わる制度そのものを批評的に問う実践を展開しています。

作品の素材となる物質の変化や、物質が内包する時間に注目しながら、有限や消失、ときに死について表現する高橋の作品は、人間の生というタイムスケールを越えた、普遍的な視点を私たちに与えてくれます。公立美術館での初個展となる本展では、ブロンズの保存技法をそのままニンジンに適用した代表作「Cast and Rot」シリーズをはじめ、新作を中心に展示します。

■ 開催情報

展覧会名	アーティスト・プロジェクト#2.06 高橋 銃 いき、またいきるまで
会 期	2022年7月16日(土) - 10月2日(日)
休 館 日	月曜日(ただし7月18日、8月15日、9月19日は開館)
開館時間	午前10時 - 午後5時30分
観 覧 料	無料
会 場	埼玉県立近代美術館(2階展示室D、地下1階センター・ホール)
協 力	LEESAYA
助 成	公益財団法人 朝日新聞文化財団
関連事業	予定等の詳細は決定しだいホームページでお知らせします。
企 画	松江李穂

■ 「アーティスト・プロジェクト#2.0」とは

埼玉県立近代美術館が2016年度に開始した新しいプログラムです。2003年にMOMASコレクション(収藏品展)の枠内で立ち上げた、収蔵作家による「アーティスト・プロジェクト」を、コレクションから独立した企画へと発展させました。収蔵作家という制約にとらわれず、活躍中のアーティストを紹介します。

■ 作家プロフィール

たかはし せん
高橋 銃

1992年東京都に生まれる。2021年東京藝術大学大学院美術研究科彫刻専攻修士課程修了。近現代彫刻の保存修復に携わりながら、自身もアーティストとして作品制作を行う。保存修復の知識や経験を起点とし、彫刻、映像、インスタレーションなど多岐にわたる作品を展開している。

近年の主な展覧会

- 2019 グループ展「生きられた庭」(京都府立植物園)
- 2020 グループ展「余白/Marginalia」(SNOW Contemporary、東京)
グループ展「In a Grove」(LEESAYA、東京)
個展「二羽のウサギ/ Between two stools」(The 5th Floor、東京)
グループ展「Sustainable Sculpture」(駒込倉庫、東京)
- 2021 個展「CAST AND ROT」(LEESAYA、東京)
グループ展「一歩離れて/A Step Away From Them」(ギャラリー無量、富山)
- 2022 グループ展「Rebuilding」(染の里おちあい二葉苑、BaBaBa)

■ 開催に寄せて



高橋銃「CAST AND ROT」展示風景 (LEESAYA, 2021年)
Photo by MISHIMA ICHIRO

この世界のあらゆる生命は、生をもって始まり、死をもって終わる。では、もし人の手によって生み出された美術作品に命があるのならば、作品にとっての「死」とはどう定義されるだろうか。物理的な消失か、あるいは人々の記憶からの忘却か。いずれにせよ、美術館はこうした「死」から美術作品を遠ざけるために、徹底した作品の保存・管理を行い、必要であればその都度作品の修復を修復家に委託する。そしてまた同時に展覧会を通して、観客に作品や作家の存在を知らしめ、美術の歴史やその必要性について伝えてきた。

アーティストの高橋銃は作家活動と並行して、これまでブロンズ彫刻の保存修復に従事してきた。様々な美術館の現場で美術作品の保存修復に携わり、作品の「死」を保留する役割を担ってきた彼だが、本展覧会ではむしろその「死」の先を想像しようとする。

展覧会タイトルである「いき、またいきるまで」とは、作品に与えられた生を安易に消失や忘却という「死」で終わらせず、別の形になってもなお生き続けるものであると仮定する態度を示している。本展覧会では、高橋が継続して制作してきた、防腐処理を施した人参と様々なオブジェクトを組み合わせた「Cast and Rot」シリーズによるインスタレーション、及び緩やかに崩壊に向かっていく双子の彫刻「Twins」を展示する。物質的な消失の兆しを生延の延長線上に置くこれらの作品は、美術作品の「生」と「死」そのものを根本から見つめ直す試みになるだろう。

私たちは皆、全ての物質と同じように消え去る運命にある。けれど、私たちが去ったあとにも何かが残り、生きた痕跡がどこかで存在している未来を思い描くこともできる。それが私たちを今この瞬間に堰き止める、一つの理由かもしれない。

松江李穂 (キュレーター)

■ 企画者プロフィール

松江李穂

1994年青森県に生まれる。東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科アートプロデュース専攻在籍。令和3年度埼玉県立近代美術館学芸員。「キュレーション公募2020」で採用され「一步離れて／A STEP AWAY FROM THEM」(ギャラリー無量、2021年)を企画。その他主な企画に「so close, yet so far」(芸宿、2017年)、「Welcome, Stranger, to This Place」(共同企画、東京藝術大学構内陳列館、2021年)など。

■会場・交通案内

埼玉県立近代美術館

〒330-0061 さいたま市浦和区常盤 9-30-1 TEL: 048-824-0111 FAX: 048-824-0119

<https://pref.spec.ed.jp/momas/>

- ・JR 京浜東北線北浦和駅西口から徒歩3分（北浦和公園内）。
JR 東京駅、新宿駅から北浦和駅までそれぞれ約35分。
- ・当館に駐車場はありませんが、提携駐車場「三井のリパーク 埼玉県立近代美術館東」では駐車料金の割引があります（企画展観覧で300円引き、MOMAS コレクション観覧で100円引き）。
- ・団体バスは事前にご相談ください。
- ・お体の不自由な方のご来館には業務用駐車場を提供いたします。ただし台数に限りがありますので事前にご連絡をお願いします。

■同時開催

企画展「シアトル→パリ 田中保とその時代」

2022年7月16日（土）－10月2日（日）

2階展示室、有料

MOMAS コレクション 第1期

2022年4月30日（土）－8月28日（日）

「セレクション」「デザインで語るユートピアー1960-70年代イタリアから」

「特集：孫雅由の小宇宙」

1階展示室、有料

MOMAS コレクション 第2期

2022年9月3日（土）－11月27日（日）

「セレクション」「さいきんのたまもの」「月を待つ一日本画の夜景」

1階展示室、有料

■新型コロナウイルス感染症防止対策について

ご来館にあたっては、新型コロナウイルス感染症防止対策にご理解とご協力をお願いいたします。状況により休館および会期変更の可能性があります。ご来館前に当館ウェブサイトで最新情報をご確認ください

■ プレスカンファレンス

2022年7月16日(土) 午後5時30分 - (受付開始: 午後5時)

埼玉県立近代美術館 2階講堂

上記の日程で、同時開催の企画展「シアトル→パリ 田中保とその時代」と合わせてプレスカンファレンスを開催いたします。参加ご希望の方は、kouhou@aria.ocn.ne.jp (広報担当・真中) までメールでお申し込みください。貴社名、お名前、取材スタッフの人数、テレビカメラの有無をお知らせください。

■ お問い合わせ

展覧会担当: 佐原

広報・画像に関するお問い合わせ: 真中

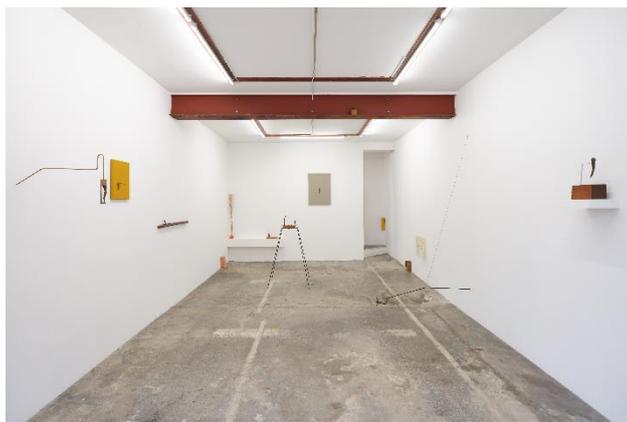
TEL: 048-824-0111 (代表) / 048-824-0110 (学芸直通) FAX: 048-824-0118

■ 広報用画像

- ・画像のご提供については、当館にお問い合わせください。当館から画像をデータにてご提供いたします。ご請求は kouhou@aria.ocn.ne.jp (広報担当・真中) まで、メールでお願いいたします。
- ・画像を掲載する場合、キャプションを記載してください。また作品部分のトリミング、文字載せなどはしないようお願いいたします。
- ・画像を掲載する場合、掲載誌を1部、広報担当までお送りください。



1



2

1 高橋銃 《Cast and Rot No.1》2019年 Photo by KEIZO KIOKU

2 高橋銃 「CAST AND ROT」展示風景 (LEESAYA、2021年) Photo by ICHIRO MISHIMA